

I 概要

桜井市議会文教厚生委員会所属議員行政視察

1 期 日 令和7年10月22日(水)～23日(木)

2 派遣委員 (委員長) 小西 誠次 (副委員長) 鍛冶 結花
(委員) 久保田 裕一 (委員) 島岡 誠
(委員) 大園 光昭 (委員) 岡田 光司
(委員) 東 俊克 (副議長) 工藤 敏太郎

以上8名

3 視察地 1日目(10月22日)

- ・ 兵庫県小野市
小野市役所

2日目(10月23日)

- ・ 香川県丸亀市
丸亀市役所



4 視察目的 【小野市】

夢と希望の教育について調査する。

【丸亀市】

新市民会館【シアター マド】の基本構想について調査する。

本委員会の所属議員は、議会の議決を得て、上記のとおり派遣を許可され、視察事項のとおり研修を行いました。

II 研修内容のまとめ

夢と希望の教育について（兵庫県小野市）

小野市役所において、事業内容等について説明を受けた後、質疑応答を行う。

●事業内容

小野市では、平成16年頃から学力の低下と、こころの教育を何とかしようと模索されてきました。その時期に当時の教育長が、脳を鍛えるゲームソフトの監修者である東北大学教授・脳科学研究者である川島隆太氏に感銘を受け、小野市の教育の力になってほしいと働きかけ、平成17年10月に小野市教育行政顧問に就任されました。

「脳の司令塔」である「前頭前野を鍛える」ことは、「生る力」を育み、こころの教育につながると提唱され、その理論に基づく「夢と希望の教育」～脳科学と教育～の取組みが始まりました。

川島教授監修のもと、小野市独自の重点施策に取り組みました。

重点施策1として、脳を鍛え、心と学力を育む「おの検定」

重点施策2として、新しい学び「16か年教育」の推進と、「小中一貫教育」のさらなる進化

重点施策3として、「教育環境整備」と「小野市型学力向上」

また、家庭・地域の教育力の向上の支援として、子どもの生活習慣育成支援、子どもの学習習慣の育成支援、地域における子どもの居場所づくりや学習機会の提供等、川島教授と連携しながら家庭・学校・地域・行政がそれぞれの役割を担い、参画と協働によって推進している。

夢と希望に向って、キャリア形成を意識し、国際社会の中でたくましく活躍できる心豊かで自立した子どもたちを一貫して育むように努められている。

●主な質疑応答

問. 不登校の子どもへの対策として、どのようなことをしているのか。

答. 教室に行きにくい子どもが通えるように、市内全校に校内サポートルームという場所をつくっており、県と市の予算で支援員を派遣して、子どもをみている。

また、学校にも行きづらい子どもには、教育サポートセンターという施設が小野市にはあり、ゆったりと自分のペースで学習できるようにしている。

問. 子どもたちのスマートフォンやSNS等のあり方や、関わり方などはどのようにしているのか。

答. 平成26年頃から、スマホやデジタルの付き合い方について、子どもたちが自分たちでルールづくりをしていたり、PTAの活動の中で親子で標語を考えたり、ポスターを作成したり等の取組みをしていた。また昨年からは、川島教授が中学2年生に向けて講演をしていただき、その効果があり今年も行っている。

問. 「おの検定」をすることで、どのように良くなったのか。

答. 学力学習状況調査では、基礎学力に関しては、一定して正答率がでているというデータがあり、小さなことでも積み重ねることが大事で、成果はでている。

●所感

脳科学に基づく教育への取り組みで成果を得たことは大いに評価すべきところである。

本市が、子どもの学力向上、豊かな心・健やかな体の育成、教育環境整備を進めていく上で非常に参考となるものであり、意義のある視察となった。



新市民会館【シアター マド】の基本構想について（香川県丸亀市）

丸亀市役所において、事業内容等について説明を受けた後、質疑応答を行う。

●事業内容

丸亀市では、新しい市民会館を整備するにあたり、「どのような建物を建てるか」ではなく「劇場でまちをどうするか」を考え、「(仮称) みんなの劇場」と呼ぶこととし、その劇場の使命と役割を果たすためには、「地域課題の把握」と「ニーズ調査」を丁寧に行う必要があり、より具体的、本質的な課題やニーズを把握するために、アンケート調査に加え「市内文化協会」へのヒアリングや、更生施設や児童養護施設、就労支援施設、フリースクール等々延べ230件の施設へ訪問して、対話を行う「車座集会」も合わせて行われた。

それらを踏まえ、「丸亀市(仮称) みんなの劇場整備基本構想」を策定された。

文化芸術の活動拠点として劇場が生み出す成果により、様々な環境のもとで生活している全て

の市民の皆さんが笑顔になれるために必要な社会機関として設置するため、「豊かな人間性を育む」「誰一人孤立させない」「切れ目ない支え合い」の3つの基本理念を掲げ、しっかりと設置目的をその構想の中に位置づけられた。

その基本理念の実現に向け、整備事業を進められた。また、併行して本施設への関心や興味、活動への理解を深めてもらうために、開館までの期間を活用し、開館準備業務として課題解決型実践ワークショップや文化芸術推進サポーター養成講座等、様々な取組をされながら、令和8年9月に新市民会館【シアターマド】の開館が予定されている。

●主な質疑応答

問. 庁内の各担当課を集めたプロジェクトチームを作ったのか。

答. 作ってないが、その代わり庁内でも車座集会をして、各担当課の職員とより距離を縮めて話し合いをしていた。

問. 市民会館には配信設備、機能はあるのか。

答. 市民会館のホール系の施設には、即座に対応できるようにいれこんでいる。

●所感

地域の規模、地域の課題に応じて、何のために建てるのかということ意識し、しっかりと考えることが重要であると改めて学んだ。

本市での公共施設へのあり方を検討、整備していく上で非常に参考となるものであり、意義のある視察となった。

